

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)和泉市消防本部・和泉消防署	階数	地上3F
建設地	大阪府和泉市府中町	構造	RC造
用途地域	一種住居、近隣商業	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2022年5月14日
敷地面積	4,674 m <sup>2</sup>	作成者	(株)伊藤喜三郎建築研究所
建築面積	1,424 m <sup>2</sup>	確認日	2022年5月15日
延床面積	2,983 m <sup>2</sup>	確認者	(株)伊藤喜三郎建築研究所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 75%

③上記+②以外の 75%

④上記+ 75%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

音環境	2.6
温熱環境	2.0
光・視環境	3.3
空気質環境	3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	2.8
耐用性	3.8
対応性	3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.7

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.8
効率的	2.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	4.0
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>室内環境、サービス性能への配慮。</li> <li>敷地内外環境への配慮。</li> <li>エネルギー、資源マテリアルの確保に努めている。</li> </ul>	<b>その他</b> ・特に無し
<b>Q1 室内環境</b>	・内装材はF☆☆☆☆を採用 ・条例により全館禁煙としている	<b>Q2 サービス性能</b> ・バリアフリー基準を満たす・事務室天井高2.60m、窓設置・執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを確保・重要度係数1.5・節水器具の採用、系統の分離、非常用水栓設置・設備耐震クラスS・基準階階高3.9m以上・1階壁長さ
<b>LR1 エネルギー</b>	・BPI <sub>m</sub> =0.74 ・BEI <sub>m</sub> =0.62	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・自動水栓に加え、節水型便器の採用・ビニル床シート(床材)、再生グラツォン(路盤材)・LGS下地に加え、FAFを採用・有害物質を含まない防水工事のプライマーを採用・ノンフロン断熱材を採用
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・緑地、中高木を設置
		<b>LR3 敷地外環境</b> ・LCCO <sub>2</sub> 排出率=75%・バイク置場、駐車場、消防用車庫、出入り口4カ所設置・光害対策フェクリストの過半を満たす、広告物照明無し

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0025

Osakafu・新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)和泉市消防本部・和泉消防署新築工事						
	建設地	大阪府和泉市府中町						
	用途/区分	事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						5	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
<b>エネルギー消費量の報告</b>								
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				4.0	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.8	5	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
	先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
	特に配慮した事項	・内装材はF☆☆☆☆を採用・条例により全館禁煙としている・パリアフリー基準を満たす・事務室天井高2.60m、非常用水栓設置・設備耐震クラスS・基準階階高3.9m以上・1階壁長さ比率0.16・ケーブルラック配線を採用・緑地、中高木を設置・BPlm=0.74・BEIm=0.62など						